

26 井手山 栄福寺

廃寺



【継承寺院】

地蔵禅院



※継承寺院の御朱印です



寺伝によると、当院は白鳳の頃の橘諸兄による草創で、寛永の頃に復興、江戸時代中期には末寺18カ寺もあり、野崎観音もその一つであったといわれています。地蔵禅院の記録によると、門前にあった栄福寺も末寺で、玉津岡神社にあった千手観世音菩薩は、明治初期の神仏分離政策で、地蔵禅院へ移されました。その後明治一四年、五名の発起人が観音修繕の寄附をよびかけ、修復を終えたといえます。お寺には詠歌額や「栄福寺」銘の石灯籠も現存しています。

26 玉峰山 地蔵禅院

住 井手町大字井手小字東垣内16 駐 無し

料 無料 (桜の時期は志納金をお願いします)

アクセス ■JR玉水駅から徒歩約30分

非公開



年代不詳 寄木造 150cm

【千手観世音菩薩立像】

1684年(貞享元年)の雍州府志によると、井手左大臣橘諸兄公(684-757)の持佛であったと伝えられています。家門繁栄・万難消滅の功德を施与される霊験あらたかな観音様です。



京都府の天然記念物

井手の里を一望できる高台になっています。境内にある樹齢300年近い「地蔵院のシダレザクラ」は府の天然記念物に指定されています。



予約公開

観音寺の廃寺跡は確定できていません。明治初年までは相楽郡内であった石垣村の観音寺は、二十六番井手山栄福寺から「十丁」の場所といわれているので、現在の石垣地区でもかなり東よりの地にあったと推測されます。明治六年十一月に廃寺となり什宝物は玉水の西福寺に引き継がれました。「十一面観音厨子入り本観音寺分売体」という記録の通り、「三尺五寸」の観音様は、廃寺となった玉井寺や東福寺の仏像群とともに安置されています。

いしかにのま
ばのつゆのとくく
おもひのたまの
かずぞ かすめる

【十一面観音立像】

室町時代 木造 96.5cm

27 遍照山 西福寺

電 0774-82-2427 【お寺の拝観は要予約】

料 500円 駐 3台

住 井手町井手柏原73 時 9:00~16:00

アクセス ■JR玉水駅から徒歩約5分



27 石垣 観音寺

廃寺



【継承寺院】

西福寺



※継承寺院の御朱印です

追記

西福寺には第25番東福寺の聖観音立像と、第27番観音寺の十一面観音立像が廃寺により移され、第25番の本尊は後に盗難により失われますが、第27番の本尊が現在も安置されています。

29

かばた
綺田かに まん
蟹満寺

かにみつる てらに
あゆみを はこぶべし
あまねさかどの
まもりさくにも



©(一社)木津川市観光協会

蟹満寺の歴史的起源は良くわかっていません。今では、控えめな大きさの寺院ですが、発掘調査で、一三〇〇年前は大きな寺院であったということがわかりました。その規模からこの地域の大きな氏族の建立であると考えられています。その一族の特色として織物の優れた技術があった為か、神仏の堂塔に供えられる織物の幡の総称である「神幡」^{かばた}「綺」の名が付けられたようで、建立当初の寺名として「紙幢多寺」^{かばた}「綺寺」という名が古文書に見られます。蟹満寺の創建時は大きな古代寺院であったと考えられますが、火災等により荒廃していったと考えられています。その後、日本で観音菩薩の信仰が流行するに伴い、この地方の蟹の恩返し^{かばた}の仏教説話が、平安時代後期に書かれた『今昔物語集』等の説話集に取り上げられ、紙幢多寺と結びつきその説話に基づく蟹満寺（蟹が満ちる寺）という寺名に名前が変わったとされています。



©(一社)木津川市観光協会

国宝の釈迦如来坐像（像高240cm、重220kgの金銅製の造立は奈良時代以前と考えられ、同様の初期の丈六金銅仏は飛鳥寺釈迦如来坐像（飛鳥大仏）、旧山田寺仏頭、薬師寺薬師如来坐像のみです。

蟹がモチーフ



©(一社)木津川市観光協会 (4点)

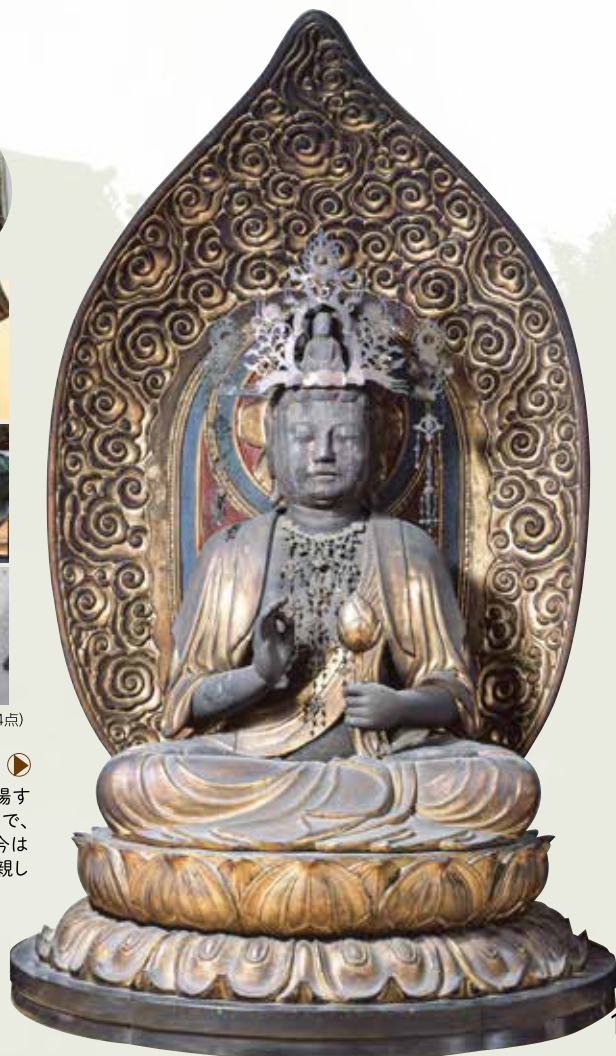
【聖観音坐像】▶

寺の創建についての説話に登場する観音像とされています。近年まで、境内の観音堂にありましたが、今は本堂に安置されています。優しく親しみやすい像です。

平安時代（頭部のみ）

木造 77.0cm

©飛鳥園



国宝

29 普門山 蟹満寺

電 0774-86-2577 住 木津川市山城町綺田浜36
時 8:00~16:00 料 500円（一般／30人以上450円）・450円（高校生）・200円（小・中学生）
駐 20台（無料）
アクセス ■JR棚倉駅から徒歩約20分
■コミュニティバス山城線（平日運行）で「蟹満寺口」下車、徒歩約10分 ■JR玉水駅から徒歩約30分

「蟹の恩返し」
縁起で有名

この辺りに観音様を篤く信仰する一家が住んでいました。ある日娘は村人から沢蟹を助け、一方で父は娘を嫁にする条件として、蛇から蛙を助けました。蛇は人の姿となって娘を迎えに来るが一家は家に籠り一心に経を唱え観音様に救いを求めました。蛇は大蛇となって怒り狂うが夜明けに突然静まり外を見ると沢山の蟹と蛇が死んでいました。この蟹と蛇を弔う為に建てられた御堂が蟹満寺の基とされています。

28 かばたにみ
綺田国見 観音堂

※蟹満寺で御朱印を
いただくことができます。



31 神童寺 蔵王堂



神童寺は、聖徳太子（五七四〜六二二）によって創建されたと伝わっています。また、六七五年に山岳信仰、修験道の開祖とされる役小角が神童寺を訪ね、修行を続けたといわれています。このとき2人の神童が役小角の前に現れました。役小角は、その二神童の助力により、日本独自の山岳信仰、修験道の本尊である「蔵王権現」を刻みました。



重文

©(一社)木津川市観光協会

全山焼失の後、神童寺の本尊、蔵王権現像が祀られているお堂は、1406年に再建されました。以前は「蔵王堂」と呼ばれていたこのお堂は、現在は、本堂となっており、国の重要文化財に指定されています。



平安時代

©木津川市教育委員会

花ならで たゞし
もぐす わがほとけ
おもひいればぞ
またよしのやま

3月下旬〜4月上旬、
鐘楼の脇の山上から
眺める桜とミツバツツジ



31 北吉野山 神童寺

電 0774-86-2161 駐 あり
住 木津川市山城町神童子不晴谷112 時 9:00〜17:00
料 500円(障害者割引料金/300円)中学生以下無料
アクセス ■JR棚倉駅から徒歩約40分

【観音菩薩立像】

『南山城三十三所巡礼記』に「御たけ五尺」の「正くはん音(聖観音)」と記される像と見られます。

33 地蔵の前 泉橋寺



平安時代 36.5cm

©木津川市教育委員会

非公開

奈良時代の高僧行基が建てた四十九院の一つで、天平一二年（七四〇）に開かれた発菩薩院、隆福尼院、泉布施屋を前身とする寺院です。徳治三年（一一三〇）に造られた石の地蔵は、応仁の乱の最中、文明三年（一四七二）地蔵堂もろとも焼かれて二〇〇年以上そのままになっていましたが、元禄三年（一六九〇）に、頭部と両手が修復されたといわれています。境内にある五輪塔は国の重要文化財に指定されています。ここは古北陸道として木津川を渡った要所で、大雨になれば交通が途絶え、行路病者たちや多くの人々が渡しの近辺に滞留せざるをえなくなるため、そのような人々の救済のために建てられたものかもしれません。

もろともには わたす
ちからは たのもしき
いづみのはしの
みでらとひつ、



高さ4.58メートルあり
日本最大級の石地蔵として有名です

【菩薩形立像】

本堂脇壇に安置されている
聖観音とみられる像です。

33 玉龍山 泉橋寺

電 0774-86-2426 駐 あり
時 9:00〜17:00
住 木津川市山城町上粕下55
アクセス ■ JR上粕駅から徒歩約10分
■ JR木津駅から徒歩約20分

加茂エリア MAP 寄り道スポット



1 鑄銭司跡 (銭司遺跡)

我が国の古い貨幣として知られている「和同開珎」を鑄造していたところです。奈良時代の鑄銭司は現在の造幣局に当たります。銭司(ぜず)の地名は、この鑄銭司に由来するものです。



2 くにのみや学習館

恭仁宮の再現DVDの上映や、発掘調査などにより出土した瓦・土器等の展示を行っています。恭仁宮の当時の状況について、思いをはせることができます。



3 恭仁宮跡・山城国分寺跡

聖武天皇が天平12年(740)に平城京から遷都した都の跡地です。期間は5年と短いですが、歴史上極めて重要な時期であったといえます。国分寺跡には七重塔の礎石も残っています。



4 岡田鴨神社

京都・下鴨神社の元宮で延喜式内社の古社であり、祭神は日本サッカー協会のシンボルマークで著名な八咫鳥が化身の賀茂建角身命(かもたけつぬみのみこと)です。本殿は江戸時代に春日大社より移築された春日造りです。



5 大仏鉄道遺構

「大仏鉄道」は、今から100年ほど前、現在のJR加茂駅と奈良駅を結ぶ関西鉄道(かんせいてつどう)の路線の通称です。僅か9年間で廃止となりましたが、線路跡の遺構が里山と共に残されています。



6 岩船寺

天平元年(729)、聖武天皇が行基に命じて阿弥陀堂を建立したのがはじまりと伝えられています。浄瑠璃寺とともに四季折々の花が咲き誇る「花の寺」でもあります。



7 当尾石仏巡り

南都仏教の僧が修行した聖地が、いつしか当尾とよばれるようになりました。鎌倉時代、多くの摩崖仏が造立されました。癒しのハイキングコースでもあります。



8 浄瑠璃寺

永承二年(1047)、僧義明が薬師如来を安置し開基したと伝えられます。池をはさんで、東に薬師如来、西に阿弥陀如来(九体仏)を配置し、境内全体で極楽浄土を表現しています。